

水産エコラベルについて

元 兵庫県水産技術センター・技術参与瀬戸内再生担当

反 田 實

1. 水産エコラベルとは

皆さんは水産エコラベルをご存じでしょうか？写真1は2023年7月に神戸市内にある筆者の自宅近くの生協と大手スーパーマーケットの食品売り場で写した水産エコラベルが貼付された商品です。この時目にした水産エコラベルは4種類で、うち1つは日本発、他の3つは海外発の水産エコラベルでした。

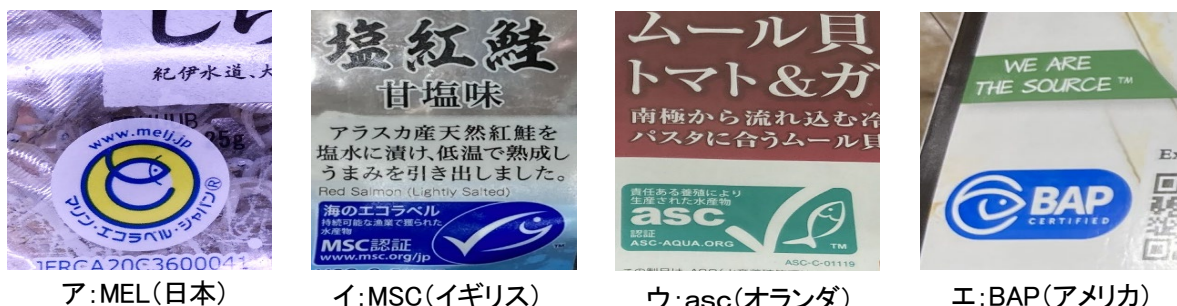


写真1 水産エコラベルが貼付された商品

これら4種類の水産エコラベルの認証スキーム(認証の枠組み・体系)はいずれも国際的機関であるGSSI(Global Sustainable Seafood Initiative)の承認を得ています。GSSIは世界の各地で水産エコラベルが乱立(140以上と言われています)する状況下において、その信頼性の確保と普及・改善を目的に2013年に設立されました。2023年7月時点においてGSSIは世界で9種類の水産エコラベル(認証スキーム)を承認しており(表1)、その中にはアジアで唯一、日本発の水産エコラベルであるMELが入っています。GSSIの承認を得た水産エコラベルは、国際的に認知されていると評価されます。

表1 GSSIから承認を受けた水産エコラベル(認証スキーム)

水産エコラベル名	認証スキームの種類	国名	GSSIの承認時期
Alaska RFM	漁業認証	アメリカ	2016年7月
IRF	漁業認証	アイスランド	2016年10月
MSC	漁業認証	イギリス	2017年3月
BAP	養殖認証	アメリカ	2017年10月
GLOBALG.A.P	養殖認証	ドイツ	2018年4月
ASC	養殖認証	オランダ	2018年9月
G.U.L.F	漁業認証	アメリカ	2018年10月
CQA	養殖認証	アイルランド	2019年2月
MEL	漁業・養殖認証	日本	2019年12月

2. 水産エコラベルが持つ意味

食品には様々なロゴマークが付けられ販売されています。ロゴマークにはそれぞれ意味がありますが、食品の安全・安心、おいしさ、地域性などが基準となっていることが多いようです。筆者が在住する兵庫県にも県が認証する「ひょうご推奨ブランド」と「ひょうご認証ブランド」があり、環境に配慮した生産方法も認証条件の一つとなっていますが、本稿で紹介する水産エコラベルの場合は、基本的な考え方にさらに大きな特徴があります。すなわち「生態系や資源の持続性など環境に配慮した方法で漁獲・生産された水産物」であるということです。このように環境への配慮と水産資源の持続性にとりわけ大きなウェイトが置かれています。

水産エコラベルの仕組みをさらに簡単に言いますと、環境にやさしい方法で漁獲・生産された水産物や加工品にそのことを示すラベルを貼付して販売し、店頭で消費者がラベルを目印に商品を選択して購入できる仕組みとすることができます。

ここで簡単に水産エコラベル誕生のいきさつを紹介します。誕生のきっかけと言われているのがカナダ・ニューファンドランド島の南東沖にあるグランドバンクにおける乱獲によるマダラ資源の崩壊です(1991年)。これにより多くの漁業関係者が失業し社会問題となったと言われています。このような状況下において1992年に責任ある漁業に関する国際会議(カンクン会議、メキシコ)が開催され、FAOに「責任ある漁業のための行動規範」作りを要請しました。これを受けて1995年のFAO総会においてこの規範が採択されました。規範の目的は、水産資源の持続的利用を進めるための責任ある漁業体制の確立であり、一般原則として乱獲及び過剰漁獲能力の防止、科学的根拠に基づく管理などが記されています。この後、エコラベルが持続可能な社会の構築に有効な手段であるとの認識(地球サミット、1992年)を踏まえ、水産エコラベルの検討が始まりました。そして、2005年のFAO水産委員会において「海洋漁業からの漁獲物と水産物のエコラベルのためのガイドライン」(以下、FAOガイドライン)が採択され、以後、世界各地で水産エコラベルが立ち上がることになりました。FAOのガイドラインでは水産エコラベルの認証スキームとして、認証は中立性・独立性のある第三者機関が行うこととされています。

FAOガイドライン策定にも影響を与えたとされるのが、1997年に環境NGOのWWF(世界自然保護基金)とユニリーバ社(イギリス)により立ち上げられたMSC認証(海洋管理協議会)です。MSCは世界初の水産エコラベルであり、現在も世界および日本において最も重要な水産エコラベルとなっています。

3. MEL(マリン・エコラベル・ジャパン協議会)について

MELは日本発の水産エコラベルで、その認証制度は2007年に発足しました。現在のスキームオーナーは一般社団法人マリン・エコラベル・ジャパン協議会です。

MELの認証には生産段階認証と流通加工段階認証の2種類があります。また、生産段階認証は漁業認証と養殖認証に分けられます。つまり3つの認証によって成り立っています。水産庁資料から水産エコラベル認証のイメージを図1に示しました。水産エコラベルの目的は、水産資源の持続性や生態系など環境に配慮した漁業(漁業認証)や養殖業(養殖認証)によって漁獲・生産された認証水産物を消費者に届けることです。図1をご覧いただければ分かりますように、認証水産物が非認証水産物と混じることがないように、流通加工段階認証によってトレーサビリティが確保されていて、これによってMELのロゴマークが付いた商品を実際に消費者に届けることができる仕組みになっています。すなわち流通や加工、販売に関わる事業者が認証水産物を扱うためには、加工流通段階のそれぞれの事業者が流通加工段階認証(CoC認証)を取得する必要があります。

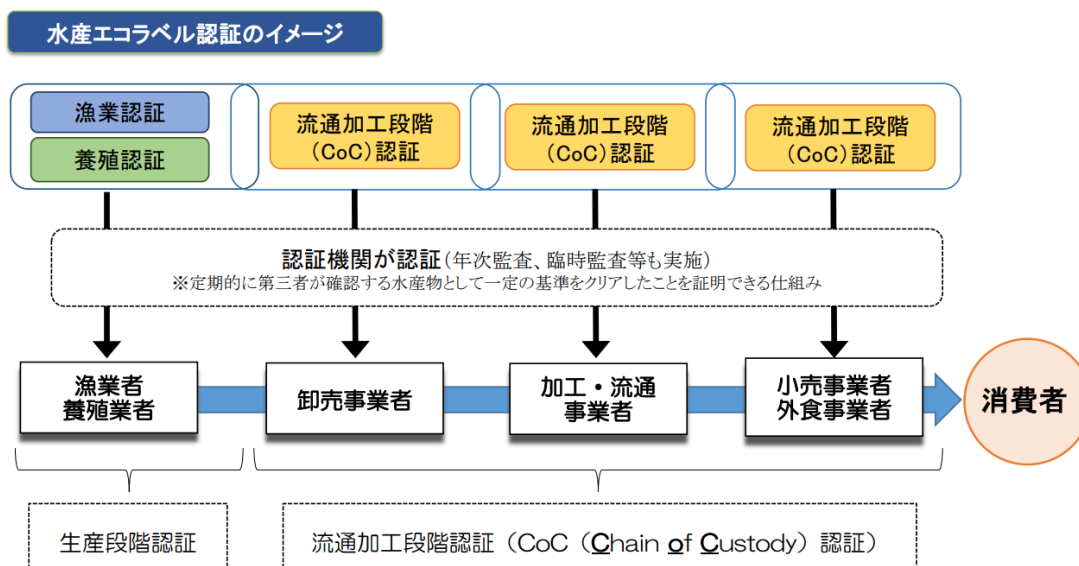


図1 水産エコラベル認証のイメージ ※令和5年4月、水産庁資料「水産エコラベルをめぐる状況について」

4. MEL 認証のスキームについて

次に MEL 認証スキームについて紹介します。水産エコラベルは公正・中立な第三者機関によって認証されなければなりませんし、当然、認証の質は保証されなければなりません。

本稿の初めにも述べましたが MEL 認証のスキームは 2019 年に国際的な第三者機関である GSSI の承認を得ています。GSSI は申請された認証スキームが FAO の「責任ある漁業のための行動規範」及び「水産エコラベルのガイドライン」をクリアする体制・規格であるかを評価、判定します。これによって MEL 認証スキームの質や国際性が担保されています。

次に、生産者、加工流通、販売業者からの水産エコラベルの取得申請に対し認証基準に基づき認証を行うのが認証機関です。現在 MEL の認証機関は(公社)日本水産資源保護協会と 2022 年末に(公財)海洋生物環境研究所が加わり 2 機関となっています。また、認証機関の信頼性と審査能力を担保するため、認証機関は国際的な認定機関である(公財)日本適合性認定協会(JAB)の認定を得る仕組みとなっています。図 2 にマリン・エコラベル・ジャパン協議会の HP を参考に、やや簡略化して MEL 認証の国際標準化のイメージを示しました。

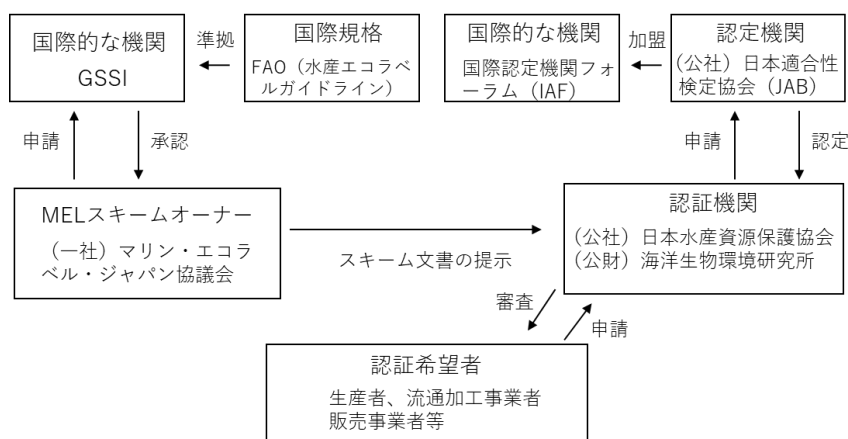


図2 MEL 認証の国際標準化のイメージ図

5. 水産エコラベルの拡がりについて

水産エコラベルは社会的にどれほど認知されているのでしょうか。農水省は国内における水産エコラベルの認知度等についてアンケート調査を行いホームページで公開しています。その結果を表 2 に整理してみました。アンケート対象グループのうち流通加工業者モニターの認知度が一番高いのですが、それでも約半数がマークそのものを知らないと回答しています。漁業者モニターおよび消費者モニターの認知度は低く、約 6 割がマークを知らないと答えています。一般的な感覚から言えば、水産エコラベルの認知度はまだ高くないと思います。ただし、消費者モニターの認知度が 1 年の間にかなり上昇している点が注目されます。この傾向が確かなものであるのかについて今後注視していく必要があると思います。

表 2 国内における水産エコラベルの認知度等について ※水産庁 HP データを用いて作成

回答区分	消費者モニター		漁業者モニター		流通加工業者モニター	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
マーク（言葉）の意味を知っている	7.6	11.8	11.5	11.3	22.2	24.3
マーク（言葉）を見たことがあるが意味は知らない	23.8	28.7	21.8	28.3	24.9	28.3
知らない	68.2	59.4	65.6	58.7	52.4	47.4
無回答	0.4	0	1	1.8	0.5	0
計	100	100	100	100	100	100
調査人数	903	895	288	283	185	173

6. おわりに

本稿を書くにあたり、大型のスーパーやコープの食品売り場を見てみましたが、水産エコラベルが貼付された商品はまだ少ないと感じました。マリン・エコラベル・ジャパン協議会のホームページによると2023年8月末時点におけるMEL認証件数は、漁業23件、養殖64件、CoC142件となっており、時系列的にも増えていることが確認できます。少し時間がかかるかも知れませんが、今後、店頭で見る機会が増えることを期待しています。水産エコラベルには商品の差別化による利益の増大を期待する側面があると思いますが、より重要なのは生態系や水産資源の持続性、環境配慮の考え方であり、それらはSDGsの考え方にも合致しています。このような視点でみれば、水産エコラベルの拡がりについては消費者側の認知度の高まりが大きな決め手になるのではと思っています。

水産エコラベルの概要について紹介してきましたが、この分野における筆者の知識は限られており、不十分な記述にとどまっている点があると思っています。もし、お気づきの記述等がございましたら、ご指摘、ご指導いただければ嬉しく存じます。

参考資料

1. 松田裕之(2020)水産エコラベルは多様で良い。アクアネット, 2020年3月号。
2. 佐野雅昭(2023)MEL ニュース 2023年8月第65号。
3. 桑原伸司(2019)マリン・エコラベル・ジャパン認証について。日本水産資源保護協会季報, 令和元年夏号。
4. マリン・エコラベル・ジャパン協議会ホームページ:<https://www.melj.jp> (2023年8月)
5. 浅野智恵美(2018)SDGsと東京五輪の水産品調達から考える水産エコラベルの課題。消費生活研究, 20(1)。
6. 浅野智恵美(2019)水産エコラベルの推進に向けた企業への提言ーSDGsと消費者視点からー。消費生活研究, 21(1)。
7. 水産庁加工流通課(2023)水産エコラベルをめぐる状況について。水産庁ホームページ <https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/budget/attach/pdf/suishin-3.pdf> (2023年8月)

8. (公社)日本水産資源保護協会ホームページ: マリン・エコラベル・ジャパン認証について.
<https://www.fish-jfrca.jp/04/ecolabel.html> (2023 年 8 月)
9. (公財)海洋生物環境研究所ホームページ: 水産認証マリン・エコラベル・ジャパン (MEL).
<https://www.kaiseiken.or.jp/mel/index.html> (2023 年 8 月)
10. 水産エコラベルハンドブック: (一社)大日本水産会編
11. MARUHA NICHIRO ホームページ: 魚の獲りすぎで 4 万人以上が失業した東カナダの話.
<https://umito.maruha-nichiro.co.jp/article07/> (2023 年 8 月)
12. 兵庫県ホームページ: ひょうご食品認証制度の概要. <https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk06/ninshouseidogaiyou.html>